

地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第 15 回）の審議要旨

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 25 日（金） 13:00～15:50
- 2 場 所 山口県産業技術センター 第 1 研修室
- 3 出席者 三浦房紀委員長、上田文雄委員、魚谷礼子委員、加登田恵子委員、正木圭子委員

（委員会の内容）

I 議題

平成 25 年度に係る業務の実績に関する評価について
第 1 期中期目標に係る業務の実績に関する評価について
平成 25 年度に係る財務諸表等について

→ 資料 1～10 により、事務局・法人から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》◆委員長 ●委員 □事務局 ○センター

<施設利用・見学受入人数について>

- なぜ施設利用者が減少したのか。
- 平成 21 年度は企業の研修等で施設利用者が大幅に増加したが、その後は企業の利用が減少している。第 2 期は関係機関との連携等により利用促進の仕組みづくりを行いたいと考えている。
- ◆ 将来、ユーザーになる可能性が高い工業高等学校の生徒を中心とした見学会等を考えてはどうか。また、増加傾向の技術相談者を施設利用に結び付ける取組ができないか。
- 施設を利用されたことのない企業等にいかに利用していただくか検討しており、ご提案についても、取組の一つとして検討していきたい。

<開放機器について>

- 新しい開放機器を導入した場合の利用実績等について、どのように評価しているのか。
- 多くの機器は補助金を活用している関係で、導入前に目標値を設定し、導入後に事後評価を 2 年間程度行うこととされており、これまでは、目標値を達成している。

<コーディネータについて>

- コーディネータはどのような活動をしているのか。
- 平成 26 年度からは、イノベーション推進センターを設置し、環境・エネルギー分野と医療関連分野の 2 チームを編成し、県内企業のニーズ調査やマッチング等を行っている。この他に、産業技術センターの業務全般を担当するコーディネータも配置している。今後も、山口大学ややまぐち産業振興財団のコーディネータと連携を図りながら、より効果的な支援の仕組みを構築していきたいと考えている。

- コーディネータの役割はとても重要であり、技術面だけではなく、企業の強み・弱みをしっかりと把握し、事業化・商品化に繋げる力を持つ人材が望まれる。

<情報発信について>

- ホームページは全体的に字が小さいので、字を大きくしたり、業務内容を分かりやすく表示するなど工夫できないか。
- ホームページは、ブラッシュアップを考えている。また、ホームページの作成・更新に従事する新たな人員配置等も検討しており、引き続き、改善に努めたい。

<第2期に向けた取組について>

- ◆ 良い評価をとること（評価のための評価）を目的とするのではなく、本来の目的を遂行するという観点で取り組んでいただきたい。場合によっては、評価が下がることもあるかもしれないが、必要な取組であれば、恐れずに取り組んでいただきたい。
- コーディネータ等において女性の力を活用するなど、他県とは違う特色を出した企業との結び付きも必要ではないか。
- 企業の技術を守るための災害対策は重要であり、専門的な研修など企業の災害対策に向けた取組を検討していただければと思う。
- 第1期は企業防災の視点でセミナーを開催した。第2期は、今年度中に産業技術センターのBCP案を策定するとともに、その経験を活かし、地域企業のBCP作成も支援していきたいと考えている。

<平成25年度評価書素案について>

- P4の(ア)②は、具体的な数値が記載できるのであれば記載した方がよい。
- P5(ア)⑤の依頼試験について、利用件数の推移が書かれていないため、分かりづらい。また、オーダーメイド試験の実施とサテライト窓口の設置という2つの要因があるにも関わらず、利用件数の結果がまとめて書かれているので、内容を整理した方がよい。

<第1期中期目標評価書素案について>

- ◆ コーディネータについて、第2期に向けて、更なる機能強化や事業化への支援等、評価委員会が期待する取組について、評価書に記載してはどうか。
- 委員のご意見を踏まえ、事務局で内容の追加・修正をさせていただきたい。
- ◆ 評価書素案については継続審議とし、追加意見等があれば7月末までに事務局へご提出いただいた上で、次回の評価委員会で再度検討したい。

《各委員了承》